

レポート・試験用紙

ゲスト講師のお二人、支援者側と支援を受け
 る側の貴重なお話を聞いて、ホームレスの人々
 中にも様々な人がいるんだなあと思わず感じた。
 支援を実際に受けた方のお話の中にもあったが
 お弁当を渡されても受けとらない人、関わるなとい
 う人もいて聞いて驚いた。自分だったらお腹が空い
 ている所にお弁当をもってきてくれたら喜んでもらう
 有難いなあと思いつながら食べようと思った。しかし
 その話を聞いて、自分がホームレスであるとい
 うことを受け入れられなかったり、その人のプライド
 があるから断るのかなあと考えた。
 支援者側のお話で「ホームレスを私たちが助
 けてあげる」という上から目線ではダメと
 聞いて、当たり前なことだけど、どこかでやはり
 「助けてあげる」という思いがあると思う。

題名	2015年6月22日	
学科 福コミュ	学籍番号	■■■■■■■■■■
科目 公的扶助論	担当教員	下村 ①

今日、改めて考えさせられた。

また、こうして上手な関係性をもつことでホーム
 レスの方から「私はいいいけど、あの橋の下に足の悪
 い人がいる」というような他の人の情報も、もら
 えるのかなあと思った。

今日来て下さった元ホームレスの方の年金を調べてみると
 だいぶ年金をもらえることが分かったという言葉をきいて
 ただ食物を与える支援だけでなく、そういった
 支援もあるんだと思い、とても印象的だった。

一度ホームレスになっても、またちゃんと暮らせる
 ようになるという実例を今日は聞いたので、ホーム
 レス支援がもっと広がっていくはいいなと思った。

元ホームレスの方が話終わった後、涙しているの
 を見て、こちらも感極まった。

貴重な話をしてくださった二人に感謝したい。

レポート・試験用紙

ホームレス支援について、今までは関心があまりなく、自分とはあまり関係のないものだと思っていたが、これは大きな間違っていると思った。ホームレス対策の現状や、就労支援など、基本的なサポートのみではなく、今の状況を知ることから、ホームレス支援の第一歩だと思う。当事者の方々の話を聞いて、人々とのつながりがとても大きい力を持っていると感じた。日常の中でホームレスの方を見ることは、以前に比べ、とても少なくなったが、もし、ホームレスの方を見かけた際に、声をかけることは勇気のある行動だと思う。しかし、実際には見て見ぬふりをしたり。社会福祉としてや、慈悲の心としてではなく、同じ人間として、行動することが必要だと感じた。制度の理解を完璧にしなくて

題名	15年6月22日	
学科 福コシ	学籍番号	■■■■■■■■■■
科目 公的扶助論	担当教員	下村 先生

山梨県立大学

とも、困っている人を救う、ということは当たり前だと感じた。

ホームレスの人は生活保護の課題と医療、自立の課題等の重複した課題を抱えている場合が多いので、社会福祉の専門職のみではなく、様々な専門職の連携が必要だと思う。また、現在の制度ではサポートしきれない部分を新たに、サポートし、地域福祉の問題として捉えていかなければならない。地域福祉の問題として捉えることにおいて、地域に暮らす人々の協力が不可欠であるが、まだまだ意識や関心の弱さにより、実現できていない部分が多々ある。改めて今後の課題の一つである。

女性のホームレスや地方のホームレスの問題など様々な課題を視野に入れるためにも、当事者の方や、当事者の方を支える立場にある人の話を聞き、関心を強めていくことから、支援のために絶対的に必要だと感じた。

レポート・試験用紙

ホムレスに押し付けられ正直、少し怖い印象
 を持っていた。幻い原ホムレスの方と目が合った
 だけでこちらに押し付けられた不満などを怒鳴りかたに
 してやるものでした。それから、ホムレスの方とは
 お互い目を合わせないようにはして自分かいたのでもが、
 それでホムレスの方について何も知らなかったから
 怒鳴ってしまったのだと感じました。ホムレスの方には
 それで事情があること、誰もかたり得る可能性
 があること、怒鳴ることを含め、様々な人がいること
 を知りました。お話をしてくださった方が、「ホム
 レスに押し付け、進んで声かけをして、話かけたりし
 てほしい」と言っていたのが印象的でした。今後は
 自分がホムレスの方と目を合わせるのを避けてきた
 ことは、ホムレスの方と社会とのつながりを切り
 離してしまっていると同じことだったのか、と気付く

題名	H27 年 6 月 22 日	
学科 福祉	学籍番号	
科目 公的扶助論	担当教員	下村①

ことができませんでした。今後は、ホムレスの経験が
 あるところお話を聴く機会が無かったのでも、
 ホムレスの方かどうな思っているのか、必要と
 する支援など、知る事ができたらいいです。

物理的な援助も大切ですが、声かけ
 などの精神的な援助をして、社会との
 つながりを深めてもらうようにすることも
 大切だと思います。

レポート・試験用紙

ホームレスだからこそ、近づいてくると人へ
 思うことなどを矢張りめたのです。SWの方は
 ホームレスの方へ近づいていく存在で、やはり
 少しは不信感も持つと思われ、その上で
 SWは根気強く関わっていく必要を感じました。また、ホームレスは様々な理由で
 なることを知りました。

中山エムの語で、“新制度が机上の空論に
 ならないためには”ということが出来ていました。
 現実と制度がうまく合わないことは、
 何かしら大きく影響してくると思われました。
 ただ、ホームレスの方を自立させたというだけ
 ではうまくいかないと感じました。しかし、制度
 をうまく利用し、ホームレスの方と関わる中で

ニーズを見つけていくが大変だと感じました。
 自立するというのは、人によって違うように感じました。
 ホームレスの方への生活に困窮している人は、日常
 生活が大変で、自分がおかれている状況を
 うまく理解していない場合も考えられました。その人
 が使える資源を十分に引きだし利用を促す
 ことがSWが行っていくことだと感じました。

題名	H27年6月22日	
学科 福祉	学籍番号	
科目 公的扶助論	担当教員	下村 T

レポート・試験用紙

2人の話を聞いて、支援とはうまくいかないことばかりだと思いました。1度就職したけれど退社してしまっ人の
 お話がとても悲しかったです。1度うまくいってしまった
 後からじめにならしてしまうことあるのだなと思いはから
 聞いていました。そう考えると、自立支援とはどこがゴールと
 はっきり決まっていないうに感じます。就職したら終わり、
 ではいけないかと思ひました。就職したらその後のケアを充分に
 することも大切だと分かりました。そして、社会のホムシスに
 対しての偏見も酷いものかと思ひました。福祉を学んでいる
 私には、ホムシスの人に花火を投げこんでしまう子とその
 気持ちはよく理解できません。私にはその行為を責める
 のではなく、なぜそれがしていい行為なのかを
 本当に理解してもらわなければいけないかと思ひました。
 ホムシスにならしてしまうのは、全てが自分の責任であるわけ
 ではありません。それなのに周りからの偏見をたここ人受けと

本当にどうしようもない社会だかと思ひます。人格だとか、
 人は平等だとか、憲法どうにかおこなはから実際は
 それができていないのが残念です。ホムシスはいか
 りだと思ひながら、人権はのて持っているて仕方
 ないけれど、ホムシスを受け入れないというのは
 また別の話だか私かと思ひます。支援することも
 もちろん大切だけれど、受け入れてくれる社会になら
 なければ、その支援もむだにならしてしまうかと思ひます。

題名	2015年6月22日	
学科 福祉コミュニティ	学籍番号	
科目 公的扶助論	担当教員	下村先生